

Discovery PROJECT

好きなこと、できることをいっしょに発見しよう！  
それが、ディスカバリープロジェクト！

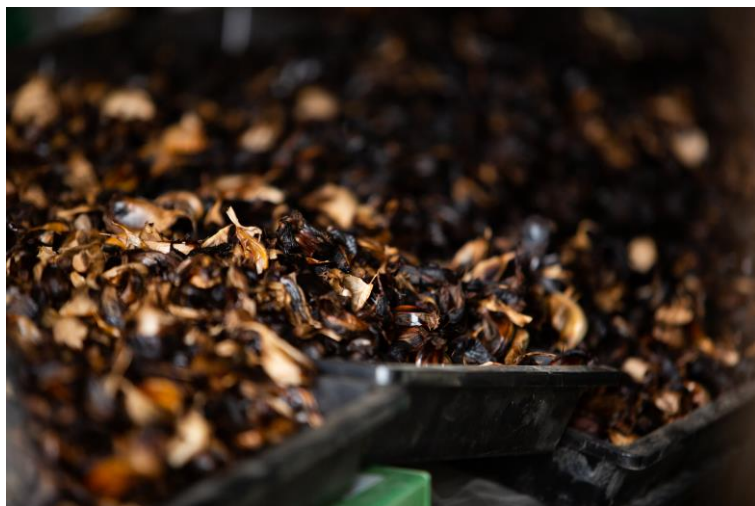


ワクワクするような魅力が詰まった『新しい福祉』のカタチを目指しているのは、株式会社ディスカバリープロジェクト。猪名川町の大島小学校区と町内の数カ所で福祉支援サービスの施設を展開している。立ち上げたのは8年前に大阪天王寺から移住してきた代表取締役の西田明光さんだ。移住と施設立ち上げの経緯や苦勞、福祉への思いなどを、畑や施設の一つ、ディスカバリーハウスを案内していただきながら伺った。

これが福祉サービス施設！？



「ここの畑は2ヘクタールほど。市場価値の高い有機ニンニクを栽培しています。発酵させて黒ニンニクにしたらさらに10倍の値がつきます」。畑は整備されており、ニンニク発酵用コンテナやニンニク刈り取り専用の機械もあり、専門農家のようなだ。



伝統的な段々畑は農作業には非効率だが、地元の人が喜んでくれるようにあえて残している。コスモスを植えて美しく飾る予定だそうだ。畑の脇の空き地には、耐熱レンガのピザ窯が設置されている。収穫したばかりの野菜を使ったピザを焼くと子どもたちも大喜びだろう。

ディスカバリーハウスのおしゃれなウッドデッキは、スタッフの手作り。ここでカフェを開くのを地元の人たちも楽しみにしているそうだ。



「子どもたちと一緒に作った自慢の間接照明を見てください。オシャレでしょう？材木商でいただいた端材を使ったと言うとみんな驚きます」。2階の広いテラスでは、自然を背景にピラティスをやる企画を立てている。ラッキーなら建物の横を通る野生の鹿が見られるそうだ。

西田さんのめくるめく施設案内は続く。

都会の会社が地方で展開するリゾート開発の話ならば、それほど驚かないかもしれないが、これは福祉サービス施設である。あきらかに、一般的な福祉施設にはない、オシャレ感、ワクワク感がある。それを生み出す秘密は何だろう。

### 『新しい福祉』を西田さんが模索するワケ

西田さんが、猪名川町に引っ越してきたのは、発達障害を持つ息子さんが、生きづらさに耐えかねて荒れていた8年前だ。統合失調症の診断が下り、本人も家族全員もが疲弊し、逃げるように都会の喧騒を離れた。

2017年に自ら福祉サービスの会社を立ち上げることを決めた。色々な福祉施設を訪ね歩いても、納得のいく施設が見つからなかったというのが理由だ。決められた枠組みの中、低賃金で働いて、その先の可能性は？自立できるのか？

障がいがあっても、可能性を広げて活躍できるようにしてあげたい。生き生きと人生を楽しんでほしい。西田さんが目指しているのは、既存の福祉にとらわれない『新しい福祉』のカタチなのだ。



### 福祉 50%民間 50%の経営

ディスカバリープロジェクトは、福祉施設としての給付金だけに頼らず、半分は民間企業として利益を生み出す事を目指している。そうすることで、未来への投資ができて可能性が広がるという。利益を生み出すには、魅力的なアイデアを次々繰り出し、収益を計算し、時

には思い切った投資をすることも必要だ。西田さんだけではできないことも、優れたスタッフや協力者を得ることで可能になる。こういったことは、福祉施設の給付金だけで賄うのは不可能なのだ。

西田さんは、元商社マン。その後飲食店の経営経験もある。そういった知識や経験、マーケティングセンスをフル稼働した結果、自分の理想とする『新しい福祉』を実現するには、「福祉 50%、民間 50%」という形が良いという結論にたどり着いた。



西田さんの考えに共感し、やりがいをもって仕事をしてくれる社員やスタッフ集めも成功している。入社希望者は増え続け、現在は 22 名のスタッフが専門分野を活かしたり、新しいミッションにチャレンジしたりしながら、Organic FARM のほか STUDIOS、SPORTS、CRAFT という 3 つの施設で 100 組以上の利用者さんをみている。

### ディスカバリーの意味

「好きなこと、できることを一緒に発見しようよ、というのがディスカバリーなのです」

西田さんがそう言った時、それは利用者さんのみに向けられた言葉ではないように感じた。サービスを提供する側の、西田さんもスタッフも、無限に可能性を秘めたこの場であって、常に、好きなこと、できることを発見しているのではないだろうか。

そんなプラス思考の施設だから、利用者のほとんどは本人の希望。みんながよるこんで来てくれているのだ。西田さんの息子さんも 1 年前からここで働いており、今は畑の 1 区画を任されて、どう使うか検討中だ。健康的な生活によって体調も良くなってきているそうだ。

## 地元を受け入れられるための作戦とは？

最後に、移住の苦勞を伺ったら、「地域の閉鎖性がありました」と意外な答えが返ってきた。それでも、休耕地を借りられたり、地元の方がスタッフに加わったりとうまく地元で溶け込んでいる秘訣をお聞きすると、「ゴルフです」とまたまた意外な答え！

農家は、たとえ空いている土地でも見知らぬ人に簡単には貸したがる人が多い。そんな時は、信頼できる仲介者が必要なのだ。仲介者となってくれるような町の実力者と西田さんは、趣味のゴルフのコンペで知り合ったのだそうだ。

「一足飛びには行きませんよ。地道に地固めすることが必要です。あとは、自分のしたいことと、地域再生など地域の課題解決にビジネスをくっつけるのです。そうすることでメリットを感じてもらいやすくなります」



なるほど、メリットが感じられれば協力者も出てくるということだ。

西田さんのもう一つのアドバイスは「市街化調整区域」について。店舗を出そうと考える人は、移住先が「市街化調整区域」でないことを確かめること。「市街化調整区域」は店を出すには、現行ではかなりハードルが高い地域だからだ。

「起業しなくても、猪名川町は自然が多く本当にいいまち。何より空気が美味しい。高速もできて、京都、神戸まで 30 分です。これから伸びるまちだと思います」

移住&起業をお考えの方は、猪名川町を検討してみたいかがだろうか。



キャプション

<220127\_055>

市場価値の高い有機ニンニクを栽培

<220127\_072>

有機ニンニクを発酵させて黒ニンニクに加工している

<220127\_078>

ディスカバリーハウスのウッドデッキはカフェにする予定

<220127\_094>

代表取締役の西田明光さん

<220127\_090>

自社ブランドの加工食品も手がけている

<220127\_051>

農作業には非効率な段々畑にはコスモスを植える予定

<220127\_054>

スタッフの手で改築中のディスカバリーハウス